

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 地域学校協働活動の取組事例

各校のニーズに応じた支援の実施(岩手県 一関市)

取組の概要や経緯

市内33小学校と17中学校のうち、新たに取組を開始した2校を含む10小中学校にコーディネーターを配置し、各校のニーズに応じたボランティアを派遣した。

内容

登下校時の見守りや校外学習の補助、読み聞かせ、図書室の環境整備、放課後のクラブ活動など、様々な学校のニーズに応じて地域のボランティアによる支援を実施した。

◎情報の共有

学校支援地域本部事業の実施校の校長やPTA会長、コーディネーターが集まり、各校での実施状況や課題等について協議する会議を開催した。

◎実施校の増加に向けた取組

全小中学校に取組事例をまとめた資料を送付し、次年度以降の事業実施に向けた意向調査を行う。



ポイント

必要とするボランティアは各校の状況によって違いがあることから、コーディネーターが各校の教職員のニーズに応じてボランティアを手配している。

成果

図画や家庭科などの実技科目において、複数のボランティアによる支援により、トラブル（例えばミシンの糸絡み）が発生しても早期に解消されるなど、授業の進行が途切れることなくスムーズに実施できている。

ボランティアによる学校の環境整備やサポートを受けていることを子供たちも感じており、感謝の心が芽生えている。

戦争体験の講話など、教科書の中だけでは触れることができない感情や様々な分野の体験を提供している。

今後の方向性

導入している学校では学校長の評価は高く、重要性も認識していただいている。

一方、未実施の小中学校が少なくないほか、実施している学校でも教職員の理解度に差がある。

毎年度、校長や副校長だけではなく、各教諭の理解を深めるための取組を継続的に行う。